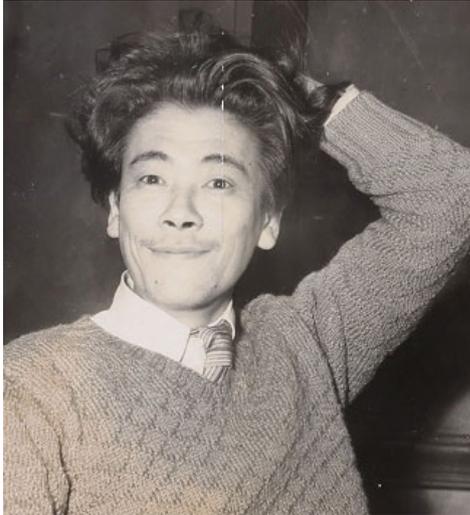


清水崑マンガ原画等資料アーカイブ化事業

概要



清水崑（1912～1974）

ストーリーマンガを中心に世界で日本のマンガが評価を受け、電子マンガなど閲覧方法が多様化する中でマンガ文化は隆盛を極めている。他方、新聞等に掲載された所謂「大人漫画」については、その存在が希薄になりつつある。昭和期に大人漫画家の中心であった、「漫画集団」については関係者が高齢化する中で、改めて彼らのマンガ史、近現代史上での位置づけを再考する時期にきていると言える。彼らは政治漫画、風俗漫画、著名人や演劇などのルポルタージュ漫画に本の挿絵や装丁など現在のジャーナリスト、イラストレーター、作家にも類する多彩な活躍を見せている。また、小説家、政治家、芸能人、出版人などと交友し、文化人としての一面も持っていた。

長崎市出身の清水崑（1912～1974）は、漫画集団の代表的な漫画家の一人である。彼が描いた政治漫画は吉田内閣を中心に激動の戦後政治を、ユーモアを交えて伝えている。また、河童が人間のように生活する「かっぱもの」と呼ばれるコマ漫画は大衆に広く受け入れられ河童ブームを巻き起こした。この残り香は現在も、黄桜酒造の河童のCM、東京都民の日のバッジ、かっぱえびせんの名称に見られる。



東京都民の日を記念した大東京祭記念バッジ

前述のとおり、清水を含む漫画集団に所属した漫画家たちの知名度が低下し、関係者が高齢化する中で、当該漫画家たちの業績を明らかにする研究が急務と言える。また、漫画集団は現在主流のストーリーマンガとは異なる漫画の形態、掲載媒体、人的交流があり、この業績を検討することは、マンガ史の一側面を明らかにするとともに、近現代史の一端を明らかにする研究であると考えられる。あわせて、長崎市としては、多大な業績を残した清水を顕彰するとともに、長崎学の一環として研究を進めている。



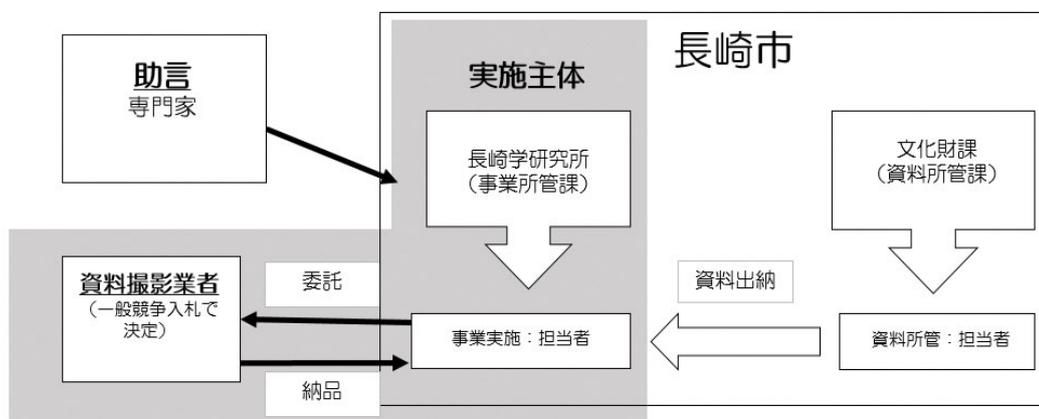
NHK テレビ連続漫画として放送された『かっぱ川太郎』の原画



「総選挙見合い写真」『朝日新聞』1952年8月18日朝刊 掲載

以上から、研究及び清水の顕彰の基礎となる漫画原画のアーカイブ化が必須であると考え、本事業の実施に至った。

マンガ原画等資料撮影



資料を配置し、撮影業者が資料を水平垂直正面になるようにカメラを調整。影やアクリルの反射の除去を行い、NO.を配置し撮影する。



撮影された資料を担当学芸員と撮影業者にて、パソコン画面で確認。支障があった場合は再撮影を実施した。

- 資料のデジタル化については、博物館、美術館での撮影経験豊富な資料撮影業者に業務を委託し実施した。
- 本年度は、清水崑展示館での撮影が困難な絵画資料を長崎歴史文化博物館撮影室へ輸送し、撮影を行った。

資料目録の整備

清水崑マンガ原画等資料目録は、寄贈時に資料サイズや分類などの基礎情報が整理されているものの、原画がどの作品の物であるかなどの情報が不足している。このことから、原画の初出掲載雑誌、単行本などの情報を追記することで、資料の基礎情報を増やし研究等に利用しやすくなるように作業を行った。また、近年寄贈された資料の追記も行われている。

方法：朝日新聞縮刷版、朝日新聞クロスサーチ、国立国会図書館デジタルコレクションなどを調査。

現状：目録への情報追加を継続中。

- 成果：① 清水の掲載誌を追うことで、長崎市の所有するコレクションの特徴が明らかとなった。
② 文献を調べることで清水の業績の再確認ができた。
③ 戦後の文化史、政治史などを検討する上で参考資料となる可能性が明らかとなった。
④ 長崎と清水の繋がりがより明確となった。

本年度は、デジタルアーカイブの専門家からアドバイスをもらう機会があり、よりよい公開の方針を持つことができた。手始めとして、資料画像の利用に関する案内の掲載と目録の公開についてファイル形式をPDFからExcelデータへ変更した。

成 果

公開・成果物

- ① 清水崑マンガ原画等資料の内、絵画資料15点の高精細画像撮影を実施。
- ② 没後50年特別企画展及び関連講座を実施。(企画展、講座共に3回実施)
- ③ 清水崑マンガ原画等資料目録掲載。
長崎市長崎学研究所HP：
<https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/720000/724000/p040100.html>
- ④ 長崎外国語大学での大学生向け講義の実施。(地域、歴史資料としての教材化)
- ⑤ 長崎市遠藤周作文学館への展示協力



オランダ万才図／清水崑展示館蔵
(高精細画像撮影事業にて撮影)

業務上で特筆すべき事項

- ① 没後50年特別企画展及び関連講座を実施

本年は清水崑の没後50年にあたるため、3回の企画展とこれに伴う講座を実施した。展示では、政治漫画の解説に新聞掲載日を記載するなど、これまでの調査の成果を盛り込んだ。また、ポスターやパネルなどに高精細画像を活用した。

講座は企画展に連動する形で実施し、2回を長崎市の学芸員、1回を熊本大学准教授の鈴木寛之氏に依頼した。これまでの調査研究の成果を多分に盛り込み、清水の業績全般と長崎と清水、河童の表象と清水について長崎市民へ知ってもらう機会となった。この講座をベースに清水と火野葦平についてNHK長崎放送局が小特集を制作しており、認知度向上の機会を得られた。

没後50年特別企画展 第1弾 「筆をかついで 清水崑の軌跡」

令和6年2月27日(火)～7月7日(日)

没後50年特別企画展 第2弾 「清水崑と長崎」

令和6年7月9日(火)～11月10日(日)

没後50年特別企画展 第3弾 「墨で描く漫画の世界」

令和6年11月12日(火)～令和7年3月9日(日)



没後50年特別企画展 展示風景

ながさき歴史の学校 講座「漫画家・清水崑を知ろう！」

講師：入江 清佳（長崎市文化観光部長崎学研究所学芸員）

日時：5月30日 18:30～19:00

場所：長崎市民会館第四研修室

ながさき歴史の学校 講座「漫画家清水崑と長崎」

講師：入江 清佳（長崎市文化観光部長崎学研究所学芸員）

日時：9月27日 18:30～20:00

場所：長崎市民会館視聴覚室

ながさき歴史の学校 特別講座「九州の水神信仰と河童マンガ ―清水崑・水木しげるの業績を中心に―」

講師：鈴木 寛之 氏（熊本大学准教授）

日時：令和6年12月6日（金）18:00～20:00

場所：長崎歴史文化博物館



ながさき歴史の学校 特別講座

② 政治漫画家としての清水崑に関する調査

現在、清水の政治漫画家としての側面に注目し調査を行っている。清水は、「詩的なあたたかさ」のある政治漫画を目指していた。これは、多大な影響を受けた岡本一平とは異なる政治漫画を描こうとする意図があり、同年代に政治漫画の両巨頭と目された近藤日出蔵とは対照的な作風と評価された。『朝日新聞』『東京新聞』掲載の政治漫画を網羅的にまとめ、さらに清水及び当時の政治漫画に関する批評、言説などを収集し分析を行っている。

また、政治漫画家として注目すべき出来事として、1951年のサンフランシスコ講和会議への派遣が挙げられる。戦後の歴史の中でも大きなトピックスであるこの出来事に漫画家が派遣された意義、政治漫画家としての清水の独自性について、東京都江戸東京博物館及び国立国会図書館にて資料調査などを行っている。

③ 長崎市遠藤周作文学館への展示協力

清水は、小説家の遠藤周作が1972年『夕刊フジ』で連載した、『狐狸庵閑話人情編』の挿絵を担当している。一方で、遠藤は清水が同年長崎市で開催した「長崎の春夏を遊ぶかっぱ展」を訪れており、この時のことを『狐狸庵閑話人情編』の最終話「清水崑画伯の個展」に書いている。このような清水と遠藤の繋がりを小企画「遠藤周作と清水崑～「狐狸庵閑話人情編」がたなぐ交流」として3回にわけて展示する。令和6年度は「第1回 二人をつないだ、長崎、キリスト教」を実施した。



小企画展「遠藤周作と清水崑～「狐狸庵閑話人情編」がたなぐ交流」 展示風景

「遠藤周作と清水崑～「狐狸庵閑話人情編」がつなぐ交流」

第1回 二人をつないだ、長崎、キリスト教

令和7年3月8日(土)～9月11日(木)

第2回 遠藤周作「狐狸庵閑話人情編」(仮)

令和7年9月13日(土)～令和8年3月12日(木)

第3回 清水崑「長崎の春夏を遊ぶかっぱ展」(仮)

令和8年3月14日(土)～令和8年9月23日(水)

④ 長崎外国語大学での講義

長崎外国語大学にて、マンガの歴史及びマンガを活用した町おこしの事例と清水崑マンガ原画等アーカイブ化事業に関する講義を実施した。歴史学の授業の一環ということで、学生が歴史や漫画に関心を持てるように構成し、後半に清水やアーカイブ化事業について触れる形をとった。これまでの調査研究の成果や撮影した高精細画像を使用することができ、学生向けの教材を作ることができたと考えている。



長崎外国語大学での講義

文化的・社会的・経済的な意義

- 清水崑マンガ原画等資料目録及び朝日新聞清水崑関連記事一覧について長崎市長崎学研究所のホームページに掲載することで、研究者及び愛好家の資料へのアクセスを容易にし、周知、研究の進歩に繋がる。
- 研究成果を論者及び研究発表することで、学術的にも清水の業績や作品の研究が進みマンガ史上での位置づけを認めることが出来る。
- メディア芸術に関する情報が集積された、メディア芸術データベースへの掲載を実現させることで、研究者及び愛好家の資料へのアクセスが活発になり、研究及び周知が促進される。
- 漫画集団の資料を有する館(京都国際マンガミュージアム、横山隆一記念マンガ館、湯前まんが美術館/那須良輔記念館、千曲市ふる里漫画館)と繋がりが出来た事から、今後研究や情報提供・交換などで連携を行う。これにより、研究者、愛好家等の交流人口の拡大が期待できる。
- 関連するミュージアム、大学との研究連携により体系的に研究が進展することで、マンガ史及び近現代史上に清水崑の業績を位置付けることが出来る。
- 研究成果を基に市民向け講座などを実施し、長崎市民の清水崑の顕彰及びメディア芸術産業への理解に繋がることが期待できる。
- 清水崑マンガ原画等資料についてマンガ史・近現代史を研究する学生の教材となるよう大学等と連携を行う。このことは、清水崑について若い世代への周知に繋がる。

課題

- メディア芸術データベースへの掲載を実現させるため、目録の整理を進める必要がある。今年度は、専門の先生方からアドバイスをいただいたことで、よりよい形での公開を目指すことができるようになった。一方で、形にしていくには時間が必要だと考えている。
- 単独では出来ることが限られるため、漫画集団団員の資料を有する館などメディア芸術に関連するミュージアムや団体との連携を行い、広がりのある研究、活用が望まれる。
- 清水崑資料は複数館に収蔵されているため、全体像の把握には各館の調査が必要である。

※掲載画像の清水崑マンガ原画等資料については、清水崑展示館所蔵となっています。